「の最期」

**「そもそもいかなる人にてましましぞ。名のらせたまへ。助けまゐらせん。」と申せば、「なんぢはたそ。」と問ひたまふ。「物そのもので候はねども、の住人、。」と名のり申す。「さては、なんぢにあうては、名のるまじいぞ。なんぢがためにはよいぞ。名のらずとも首をとつて人に問へ。見知らうずるぞ。」とぞのたまひける。**

**熊谷、「あつぱれ大将軍や。この人一人討ちたてまつたりとも、負くべきいくさに勝つべきやうもなし。また討ちたてまつらずとも、勝つべきいくさに負くることもよもあらじ。が負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、このの父、討たれぬと聞いて、いかばかりかきたまはんずらん。あはれ助けたてまつらばや。」と思ひて、後ろをきつと見ければ、、五十ばかりでつづいたり。熊谷、涙をおさへて申しけるは、「助けまゐらせんとは存じ候へども、味方の、のごとく候ふ。よものがれさせたまはじ。人手にかけまゐらせんより、同じくは、直実が手にかけまゐらせて、のをこそつかまつり候はめ。」と申しければ、**

**「ただ、とくとく首をとれ。」**

**とぞのたまひける。**

**熊谷、あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしともおぼえず、目もくれ心も消えはてて、前後不覚におぼえけれども、さてもあるべきことならねば、泣く泣く首をぞかいてんげる。」**

問１　敦盛の「覚悟」がわかる部分はどこだろう？

理由

まとめ

「敦盛の最期」現代語訳（略）（

（「ワイド＆ビジュアル最新国語資料集」明治図書出版会社より）